

24つくばエクスプレス沿線開発地区内 定住促進方策検討調査業務 【概要版】

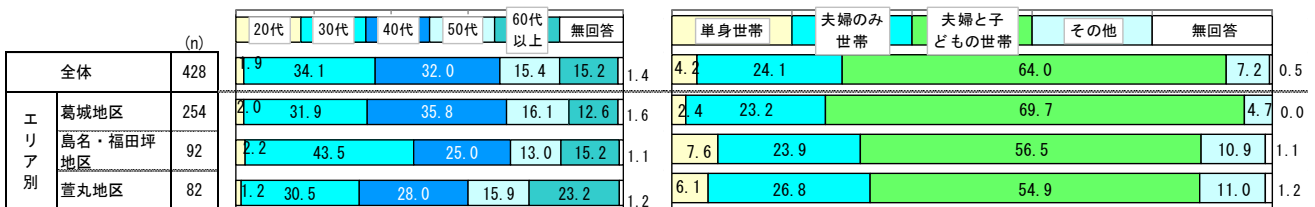
調査の概要

- ◇目的：つくば市内のTX沿線開発地区（研究学園駅圏、万博記念公園駅圏、みどりの駅圏）内居住者を対象として、つくば市への転入理由、これまでのPR事業の有効性を明らかにし、今後のつくば市の施策・PR展開へ反映させることにより更なる定住促進へつなげることを目的とする。
- ◇アンケート対象者：TX沿線開発地区居住者（作為抽出：1,112世帯）
- ◇アンケート配布方法：つくば市職員による各戸訪問、配布（不在時には、ポスト投函）
- ◇配布時期：平成25年2月上旬
- ◇回収方法：回収は配布から2週間後を締切日に設定。回収方法は、郵送回収
- ◇回収数（回収率）：428件（38.5%）

転入者アンケート調査結果のまとめ

<回答者の世帯像>

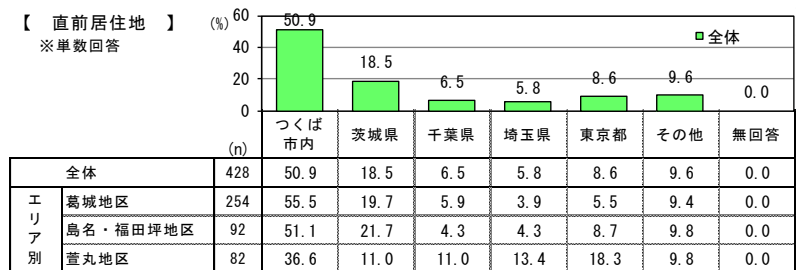
■TX沿線3地区の居住者平均像としては、30～40代の夫婦と小学生の子供1～2人のファミリー世帯。



<直前居住地について>

■直前居住地は、全体ではつくば市内が約半数であるが、地区により直前居住地に差異がある。葛城地区及び島名・福田坪地区の他県からの流入割合は25～27%、一方、萱丸地区は他県からの流入者割合が52%と高く、特に東京都からの流入割合が18%と高い。

【直前居住地】
※単数回答



<つくば市以外で比較検討した市区町村>

■転居の際に比較検討した都市は、「守谷市」が全体の45%でトップ、次いでつくばみらい市36%、千葉県の柏市27%、流山市25%とTX沿線都市が続き、常磐線沿線の牛久市、都区内の順となる。

1	茨城県／守谷市	44.5	6	東京都23区	12.9
2	茨城県／つくばみらい市	35.5	7	茨城県／土浦市	9.7
3	千葉県／柏市	27.1	7	埼玉県／三郷市	9.7
4	千葉県／流山市	25.2	9	東京都23区外	7.7
5	茨城県／牛久市	16.8	10	千葉県／松戸市	7.1

転入者アンケート調査結果のまとめ

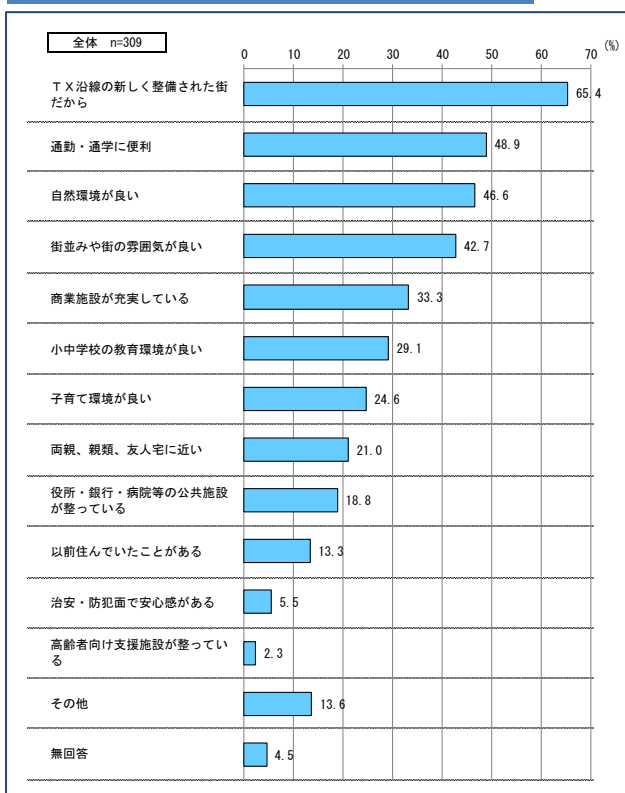
<つくば市への転入を決めた理由（つくば市以外からの転入者）>

■つくば市への転入を決めた理由として、「TX沿線の新しく整備された街だから」65%、「通勤・通学に便利」49%、「自然環境が良い」47%、「街並みや街の雰囲気が良い」43%の選択順となっており、これらが評価されている項目となっている。

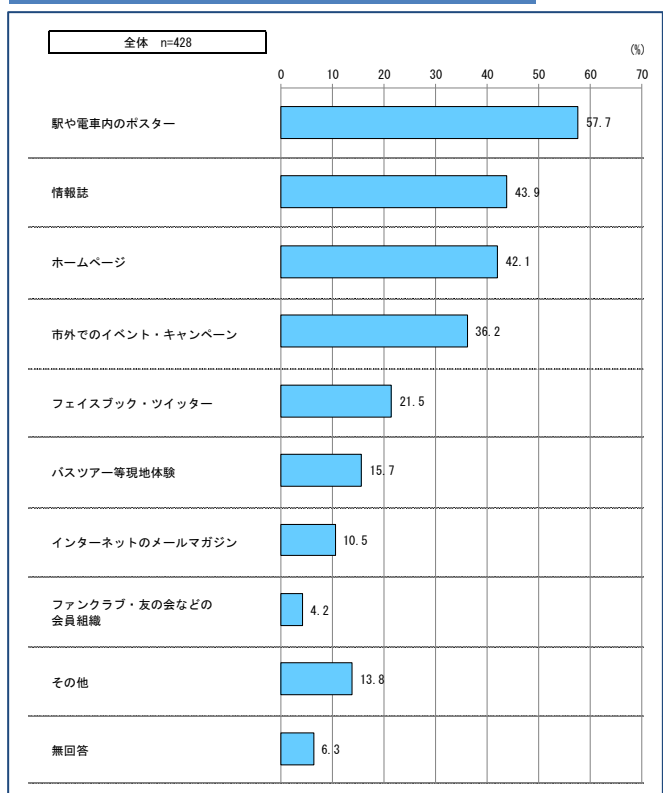
<つくば市への転入者を増やすために効果的だと思うPR手段について>

■つくば市への転入者を増やすために効果的だと思うPR手段については、駅や電車内のポスターなどの「交通広告」がトップ、ついで「情報誌」、「ホームページ」、「イベント・キャンペーン」、「フェイスブック・ツイッター」の順である。

つくば市への転入を決めた理由
(複数回答)



つくば市への転入を増やすために効果的だと思うPR手段
(複数回答)



<つくば市のPR活動について>

①つくば市の情報誌「くらすむ」について

■情報誌「くらすむ」の認知度（「読んだことがある」「見かけたことがある」）は、低い割合であったが、読者は転入の際に「役に立った」としている。読者アンケートはがきをつけることなどで読者の声を誌面作りに反映させることや、市のホームページにもバックナンバーとして掲載し、より広く情報伝達することなどを今後検討する必要がある。

②「つくば市定住促進バスツアー」について

■つくば市の魅力を体感してもらうためのバスツアーであり、参加者の意見からは、つくば市の魅力に触れることができたといった一定の評価がなされており、今後も定期的な実施が望まれる。茨城県、UR都市機構が実施しているTX住みたいねっとのバス見学会との合同開催や、相互の開催告知PR等の連携による相乗効果などを今後検討する必要がある。

＜つくば市の生活環境についての総合満足度＞

□つくば市の生活環境などについて満足度を「満足」「どちらかといえば満足」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満」「不満」の5段階で尋ねた。

■生活環境に対する全体としての総合満足度（「満足」「どちらかといえば満足」を合計した割合）は74%と高い割合。

【生活環境の総合満足度】

※ 単数回答

		満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	無回答	満足計
全体	428	18.9	54.9	17.3	5.8	1.2	0.9	73.8
性別	男性	24.0	50.0	18.4	5.6	2.0	0.0	74.0
	女性	14.6	60.6	16.8	6.2	1.8	0.0	75.2
エリア別	葛城地区	22.0	57.5	14.2	4.7	1.2	0.4	79.5
	島名・福田坪地区	15.2	59.8	16.3	5.4	2.2	1.1	75.0
	萱丸地区	13.4	41.5	28.0	9.8	6.1	1.2	54.9

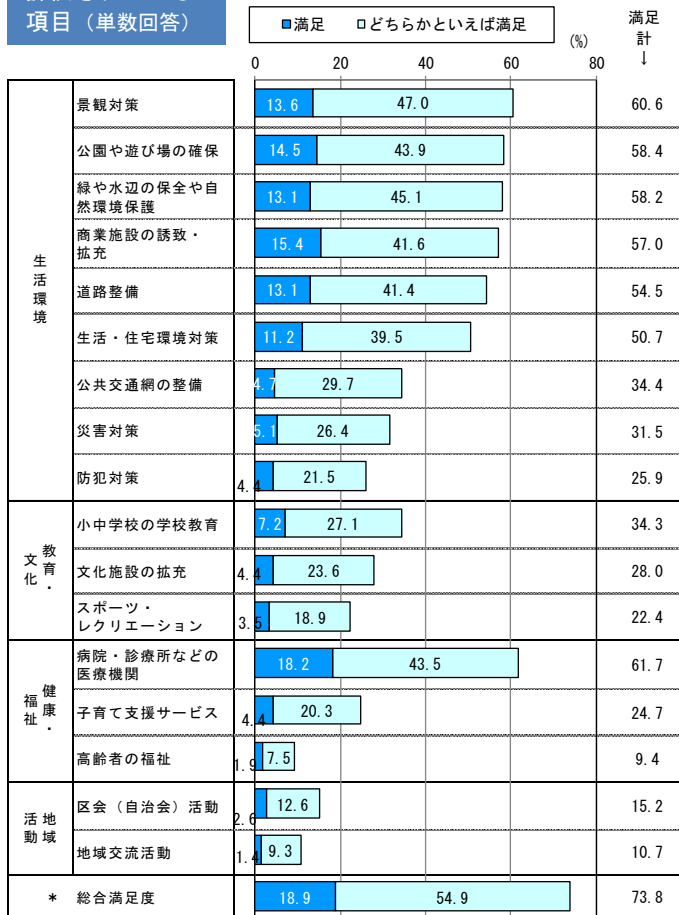
＜つくば市の生活環境について評価されている項目＞

■評価されている項目（満足度＝「満足」「どちらかといえば満足」を合計した割合）は、「病院・診療所などの医療機関」が62%で最も高く、次いで「景観対策」61%、「公園や遊び場の確保」58%、「緑や水辺の保全や自然環境保護」58%、「商業施設の誘致・拡充」57%、「道路整備」55%、「生活・住宅環境対策」51%の順である。

＜つくば市の生活環境について評価されていない項目＞

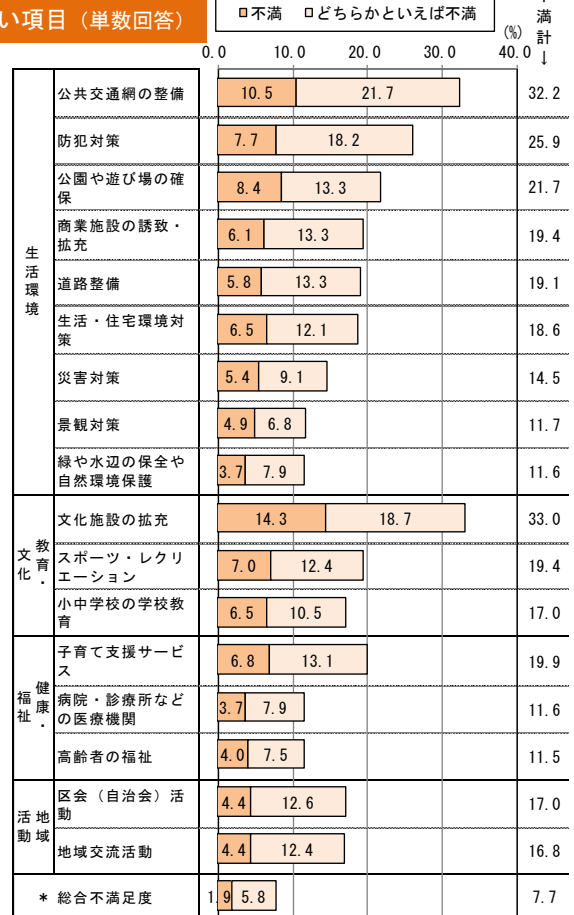
■評価されていない項目（不満足度＝「不満」「どちらかといえば不満」を合計した割合）は、「文化施設の拡充」33%がトップであり、次いで「公共交通網の整備」、「防犯対策」、「公園や遊び場の確保」と生活環境に対する項目が上位である。

評価されている項目（単数回答）



* 各分野の中で、満足計の数値が大きい順に並べてある。

評価されていない項目（単数回答）



* 各分野の中で、全体での不満計の数値が大きい順に並べてある。

今後の定住促進方策の実施にあたり留意すべき事項

- ◆訴求ポイントの再整理
- ◆住民ニーズの把握・市場調査の実施
- ◆ターゲットの明確化
- ◆戦略的プロモーション

具体的な定住促進方策について

◆つくば市の持つ優位性、訴求ポイントの再整理

アンケート結果から、つくば市への転入を決めた理由としては、「TX沿線の新しく整備された街だから」、「通勤・通学に便利」、「自然環境が良い」、「街並みや街の雰囲気が良い」、「商業施設が充実している」がトップ5である。

「小中学校の教育環境が良い」、「子育て環境が良い」といった項目については、全体の順位は6位、7位であるが、年代別で30代、40代、同居者のステージ別で「未就学児あり」、「小・中学生あり」層は高い評価をしており、転入を決めた大きな理由といえる。「教育環境・子育て環境」について、関係の深い世代層においては優位性を有し、訴求すべきポイントといえる。

直前居住地が、つくば市以外の方は、「TX沿線の新しく整備された街」「自然環境が良い」の評価が高い。つくば市居住者は、「通勤・通学に便利」がトップであり、これらも訴求していくべき項目であるといえる。

◆首都圏での交通広告の実施

駅や電車内のポスター（いわゆる交通広告）は、不特定多数に対し、広く発信する媒体として訴求力をもつ広告である。特に首都圏在住者、都心への勤務者をターゲットとした場合、日常の移動手段である通勤・通学の動線上にあり、大都市になればなるほど、交通広告の有効性が高くなる。



◆つくば市PRキャンペーンの実施

東京駅、秋葉原駅などの主要ターミナル駅において、つくば市定住促進キャンペーンを定期的実施することは、つくば市の認知拡大に向けて有効である。先に述べた交通広告の掲載と併せて実施することや、嗜好媒体である雑誌、また市内の企業、研究機関等とのタイアップなど、立体的なプロモーション展開を図ることにより、ターゲットに対してより効果的なPRを行うことができる。



調査件名：24つくばエクスプレス沿線開発地区内定住促進方策検討調査業務

発行日：平成25年3月

発行元：つくば市都市建設部 TX・まちづくり推進課

〒305-8555 茨城県つくば市苅間2530番地2

(研究学園D32街区2画地)

029-883-1111 (代表)